

しょうゆが香る企業城下町

千葉・野田市

豊田市、日立市、久留米市……。全国には、特定企業が大きな影響力を持ち、地域経済を支える企業城下町が数多くあります。しょうゆで知られる食品会社キッコーマンの本社と工場が点在する野田市も、そんなまちの一つです。

元々は農閑期の余業として醸造が始まったしょうゆですが、江戸時代中頃には手工業が発展。料理に欠かせない便利な調味料として大いに普及しました。

江戸川と利根川の水運が利用できたおかげで、大豆などの原料調達と大消費地江戸への製品出荷が野田では容易でした。そのため複数の有力な醸造家が生まれて組合を結成。明治時代以降は製法の近代化を進めることで大きな成長を遂げます。

そんな中、水道や鉄道などのインフラから、銀行、病院にいたるまで、すべてキッコーマンの前身、野田醤油が整備。次第に企業城下町の様相を呈するようになってきたというわけです。

今でも、キッコーマン総合病院は地域医療の中核的役目を果たしているとか。そうそう、ちなみにこの病院、ドクターもナースも、れっきとしたキッコーマンの社員であります。



健

野田市
キッコーマン



しょうゆに掛けて「商誘」と命名された
旧・野田商誘銀行



北前船が離島に生んだ大工町

佐渡・宿根木

「まるで古い映画のワンシーンだなあ」

折からの雨で濡れそぼった民家の角から、モンペ姿の杉村春子や岸田今日子が唐傘を手につくと現れそう……。

やってきたのは佐渡島の南端、特徴的な板壁の家並みと石畳の路地が迷路さながらに走る宿根木の集落です。

古くは金山と銀山、日蓮や世阿弥らをはじめとする流刑者の地として知られた島ですが、江戸中期から明治にかけては北前船の寄港地としても栄えました。100棟以上の家が軒を寄せ合うこの集落も、交易で財を成した船主や寄港した船を修理する船大工が多く暮らしていました。いわば大工町です。

「家へ入れば、船大工の技も見られますよ」と、ボランティアガイドのお兄さんに教えられ、内部が公開された船主の屋敷へ向かいます。

なるほど、吹き抜けの高い窓は、船の帆を巻く滑車を利用して開閉する仕掛け。手の込んだ細工や漆塗りの板床など、地味な外観から想像できないたくさにも驚かされます。

今も大半の家に人が暮らす宿根木。島特有の生活と歴史を背負って、時がひっそりと流れています。



江戸の昔そのままに、石を載せた板葺きの屋根が残っている

